



# ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和7年2月13日  
文責:校長 江上 知男



研修中の先生方

## 先生も「英語」を学びます！

保護者や地域の方が学校で英語（外国語）を学び始めたのは、多くの方が中学校からではないかと思います。小学校の英語の歴史は、まだ20年あまりですし、教科になったのは令和になってからです。嘉島町では、教育委員会が中心になって「英語教育推進プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちへの効果的な指導法を模索しています。以前は、本校も「県教委指定の研究推進校」でした。

1月29日（水）には、その一環として本校で研

修を実施しました。本田研究主任と藤田指導教諭が講師となり、「時間の英語授業「模擬授業形式（講師以外の教師は子どもの立場になって授業に参加する方法）」で学び合いました。とても楽しい雰囲気の中、「どうか、こうすればいいのか」等の様々な発見がある時間となりました。

私は英語がとても苦手で、学校の入学試験や卒業においてとても苦労した経験があります。もはや、「苦手」ではなく「逃げたい」感情があります。しかし、本校の子どもたちは、習いたての英語を使って、自信をもって生き生きと表現しています。何より「英語を話すことが楽しくて仕方ない」という表情をしているのです。「出会い方が大切なんだ」とつくづく思います。

日本が、国をあげて英語を小学校に導入した理由は、次の2点だと言われています。

**①コミュニケーションの体験**：英語に慣れ親しみ、英語を体で覚えられる小学生期に取り入れることで、文法などの知識をあまり考えずに、遊びの中でコミュニケーション自体を楽しむため。

**②グローバル人材の育成**：語学を通じて異文化への理解や関心を高めることにつながり、海外でも活躍できる人材を育てる基礎作りとして有効であり、異文化に対する柔軟性も身に付くため。

これから時代、ますますグローバル化（世界との結びつきが強まること）が進展すると予想され、英語力もさらに重要視されると予測します。子どもたちが、私のような「英語に強い苦手意識を持つ人」にならないためにも、「慣れ親しんだ状態で中学校に進学する」ことを学校全体で目指します。

## 「体験入学」がありました！

2月6日（木）に、新入学児童体験入学を実施しました。来年度の1年生が、親子で来校してくださいました。新入生は、今のところ88名の予定です。

当日大活躍だったのが5年生で、体育館の準備・受付補助…そして、新入生のお世話を校内を探検させてくれたりしました。新入生はとても楽しそうでしたが、5年生の表情も活き活きして「お世話を楽しんでいる」という感じがしました。6年生から伝統を受け継ぐ5年生…本校の将来は明るいです！

今年に入って、相次いで肉親や親しい方の「死」に接することになりました。つくづく「命の尊さや儚さ」を痛感します。同時に「生かされていること」に感謝の念を持たずにはおられません。私は、「人は亡くなても『心や思い』は生き続ける」と考えています。お別れした方の心や思いを大切にし、それを引き継いで行くために、「神様がお迎えに来るまで、自分の命を大切にし、全力で生きよう」と強く思います。お亡くなりになった方のご冥福を心からお祈りします。

